

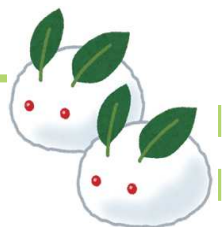
荻窪病院だより

2015 vol.1



もくじ

新年のごあいさつ.....	3ページ
新しい紫外線治療器を導入しました.....	3ページ
子宮筋腫と言われたら・・・婦人科内視鏡手術ってどんな手術？・	4～5ページ
地域医療に貢献するために～第7回医療懇話会.....	6ページ
職場訪問・職場体験学習.....	6ページ
インドネシアからの新しい仲間が増えました.....	6ページ
厨房が新しくなりました.....	7ページ
すぎなみフェスタに出展しました.....	7ページ
フットケア・下肢救済センターのご案内.....	8ページ



荻窪病院の理念

患者さんへ、安心して信頼される医療を提供します。

職員へ、やり甲斐のある仕事と豊かな生活の場を提供します。



11月9日 荻窪病院まつり
詳しくは7ページ



第25回みんなの健康講座

「適切なスキンケアで健康なお肌を手に入れましょう」のご案内

第25回みんなの健康講座を開催します。

講師は当院皮膚科部長の布袋祐子医師。何かとトラブルが多い冬のスキンケア。

ぜひご家族皆さままでお越しください。

日時：2015年2月7日（土） 午後2時～ ※ 参加費無料

場所：西荻地域区民センター（杉並区桃井4-3-2） 定員70名

講師：荻窪病院 皮膚科部長 布袋祐子医師

お申込み方法：2通りあります。

① 直接、西荻地域区民センターに往復葉書でお申し込みください。

（詳しくは、西荻地域区民センターのホームページをご覧ください）

② 荻窪病院地域連携室にお電話でお申し込みください。

電話番号：03-3399-0257（地域連携室直通）

平日 8:30～18:30 土曜日 8:30～12:00



多くの方のご参加をお待ちしています！

新年のごあいさつを申し上げます

皆さま あけましておめでとうございます。
穏やかな年明けを迎えられたことと存じます。



長らくご迷惑をお掛けしました当院本館の改修工事も無事終了し、現在 252 床全ての病床が稼働しております。今後も強化された機能を発揮すべく、職員一同努力を続けてまいります。

病院の質向上のためには、多数精鋭の医療チームにより、医療を提供する必要があります。今後は、医師や看護師のみならず、様々な職種からなる医療チームを構築し、患者さま中心の質の高い医療を行うことを目指しております。

また、地域包括ケアにおける急性期病院の役割として、地域の訪問診療、訪問看護、介護ステーションなどの地域の様々な医療介護資源との連携をさらに強めてまいります。

当院は災害拠点病院であり、いつ起こってもおかしくないと言われている都市直下型の地震災害に対する備えについても数年来積極的な取り組みを行っております。

昨年 7 月には、杉並区と荻窪病院近くの中央大学附属杉並高校との三者による災害時協力協定を締結しました。また、8 月 30 日には、首都直下型地震を想定し、地域医師会、行政、自治会、警察署、消防署、東京 DMAT と連携し東京都・杉並区と合同で医療救護活動の大規模訓練（約 1 万 5000 人参加）を実施致しました。

本年も、この地における最高の医療貢献を目標に、職員一同高い理想を掲げ、より一層邁進していく所存ですので、皆さまのご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

最後に、皆さまにとってこの 1 年がより佳き年であることをお祈りして、年頭のご挨拶にかえさせていただきます。

2015 年元旦

病院長 村井信二



新しい紫外線治療器を導入しました



荻窪病院皮膚科では、全身に皮疹を認めるアトピーや乾癬の方を治療できる一方、狭い範囲にだけ紫外線を照射でき、お子さんや妊娠中の方の治療にも使用できる「デルマレイ 400」（紫外線治療器）を導入しました。

1 回の照射時間は 3～8 分。横になっているだけで目的の部分を含む全身を照射することができ、紫外線に対するアレルギーを調べることも可能です。

アトピー性皮膚炎、乾癬、類乾癬、白斑、円形脱毛症などの疾患には優れた効果が期待できます。詳細は皮膚科医師にご相談ください。

子宮筋腫と言われたら・・・

婦人科内視鏡手術ってどんな手術？



産婦人科部長 吉田 宏之医師

子宮筋腫は女性がかかる病気の中でも、比較的によく耳にする病気であると思います。筋腫があっても、特に症状がないため気付かずに生活をしている方もいるでしょう。

また、「様子を見ましょう」と医師に言われた方もいるかと思いますが。しかし、筋腫が大きくなってきたり、できる場所によっては月経量が多くなったり、痛みなどの自覚症状が出て来る場合もあります。また、時に不妊症の原因の一つとなる場合もあります。

こういった時には、治療法の一つとして手術が有効となってきます。手術と聞くと「大丈夫なの？」と不安を感じる方も多いのではないのでしょうか。そこで、今回は婦人科の内視鏡下手術について、当院の産婦人科部長、吉田宏之医師に聞いてみました。

産婦人科における内視鏡下手術にはどんな種類がありますか？

産婦人科における内視鏡下の手術には、下記の3つがあります。

- ① 腹腔鏡下手術
- ② 子宮鏡下手術
- ③ 卵管鏡下手術

当院では良性疾患（がんではないもの）の腹腔鏡下、子宮鏡下の手術を行っています。

また、今後は卵管鏡下手術も開始する予定です。



④ 腹腔鏡下手術とは？

腹腔鏡下手術にはいくつか方法がありますが、当院では臍を中心に1～数か所の小さな切開で器具を挿入し、お腹をガス（二酸化炭素）でふくらませて手術を行います。

⑤ 子宮鏡下手術とは？

お腹には切開を入れずに、子宮口から器具を挿入して子宮の中の病気を治療する方法です。

どんな病気が対象になりますか？

⑥ 腹腔鏡下手術

適応疾患：子宮筋腫、子宮腺筋症、卵巣嚢腫、異所性妊娠（子宮外妊娠）、不妊症（多嚢胞性卵巣症候群 etc.）など
術式：子宮筋腫核出術、子宮全摘術、卵巣嚢腫摘出術、付属器切除術、子宮外妊娠手術（根治術・線状切開）
癒着剥離術、卵管開口術、卵巣多孔術などです。

⑦ 子宮鏡下手術

適応疾患：子宮粘膜下筋腫、子宮内膜ポリープ、中隔子宮、子宮内腔癒着など

術式：筋腫・ポリープ切除術、中隔切除（切離）術、癒着解除術など

ただし、例えば筋腫の大きさが非常に大きい、数が多い、悪性の可能性を比較的考慮に入れるべき所見がある、お腹の中にひどく出血し血圧が維持できないなどで内視鏡下手術を選択できない場合があります。

内視鏡下手術のメリットデメリットは何ですか？

患者さんにとっては開腹手術に比べ痛みの軽減、傷が目立ちにくい、出血量の減少、入院期間の短縮、活動性の早期回復など利点が大きいとされます。

ただし入院期間が短い分、退院後にわかってくる遅発性合併症（手術のときにはどうしても分からない腸の火傷などによる腹膜炎など）には注意が必要となります。

また術式によっては尿路系（膀胱や尿管）損傷などの合併症は開腹手術に比べて増加するとされています。

入院期間はどのくらいですか？

腹腔鏡下・子宮鏡下手術とも前日入院で、通常腹腔鏡下手術は術後5日目に、子宮鏡下手術は術後1～2日目に退院となります。（開腹手術は通常術後9日目に退院としています）



通院はどのくらい必要ですか？

外来で手術の1ヶ月以内にまず準備としての検査（採血・心電図・レントゲン検査など）を行い、出血の見込まれる手術（筋腫の核出術など）では自己血貯血を2回ほど行う場合があります。

また必ず手術に立ち会うご家族と一緒に手術の詳しいお話をいたしますので、ご予約を調整します。

退院後は数日程度自宅で体調を整え、デスクワークのようなお仕事であれば子宮鏡下手術なら速やかに、腹腔鏡下手術でも退院後約1週間程度からは徐々に始められても良いでしょう。通院は退院後数週以内と、その後1～2回となります。

費用はどのくらい掛かりますか？

通常の子宮筋腫、腹腔鏡の手術で1週間程度の入院で、費用は健康保険3割負担の方で20万円程度です。また、子宮鏡下の子宮筋腫摘出術ですと、3日間ほどの入院で費用は11万円程度です。

※ 開腹手術はおおよそ11日間の入院です。個室は別料金となります。



最後に患者さんへのメッセージをお願いします！

そうですね、ご自分の体の事をきちんと分かっていたければと思っています。なぜなら、手術にはメリットとデメリットがあるからです。

例えば、残念ですが腹腔鏡の場合も手術の傷は出来ます。また、少し突っ張って痛かったりすることもあるかもしれません。そういうことを考慮したとしても、今の自分は手術した方が良いのか、あるいは手術しないという選択肢もあるのか、ご自分の体の状況をしっかり分かっていたきたいと思っていますので、診察時、繰り返しお話するように心がけています。

当科は、医師や看護師、受付スタッフの顔を見て、この病院だったら良いなと思っていただけるように、患者さんに関わっている全員で患者さんをサポートしたいと思っていますので、手術等に関わることで心配なことがありましたら、安心してご相談ください。

【医師紹介】

吉田 宏之（よしだひろゆき）

慶應義塾大学医学部非常勤講師
日本産科婦人科学会専門医



※ 手術をご希望の患者さまについては、お待ちいただく期間を短くするため、常勤医の再診枠でのご予約を行っています。掛かりつけの医師にご相談の上、紹介状と採血、画像データなどの検査結果を作成していただき、地域連携室を通しご予約ください。

★ 荻窪病院 地域連携室

03-3399-0257（平日9時～18時30分
土曜日9時～12時）

地域医療に貢献するために～ 第7回荻窪病院 医療懇話会



去る2014年12月9日、地域の医療機関の先生方を招いて第7回荻窪病院医療懇話会を開催しました。

各診療科部長による得意分野や医師紹介などの後、当院の管理栄養士より地域NST連携（地域で患者さんの栄養サポートを行う試み）についての発表もありました。

荻窪病院では循環器、整形外科、消化器など様々な診療科が年に数回、地域の医療機関様との意見交換（カンファレンス）を行っています。また、医師だけではなく、今回のように他職種のスタッフも院内外問わず活発に活動しています。



写真左
栄養管理科
西 管理栄養士

写真上
医療懇話会
診療科紹介（救急科 辻医師）

今後、より一層この地域に貢献していくために、スタッフ全員が力を合わせ努力していきたいと考えています。

職場訪問・職場体験学習を行っています



写真上
薬剤科では多くのお薬を目にしてびっくり。

荻窪病院では、地域の小学生～高校生の方の職場体験を受け入れています。プログラムは数時間のものから5日間のものまで様々。小学校2年生から高校生まで幅広い年齢の生徒さんがやってきます。医師の話の聞いたり、手術を見学したり色々な部署の仕事を体験し、ちょっぴり？成長して帰っていきます。

この年明けにも3校の職場訪問を予定しています。もし院内で見慣れない若いスタッフを見かけたら、どうかあたたかく見守っていただければ幸いです。

写真下
栄養科では、食事作りから配膳まで体験します。



職場体験についてのお問い合わせは
荻窪病院 地域連携室 03-3399-0257 までお願い致します

インドネシアからの新しい仲間が増えました



荻窪病院では5年ほど前からEPA（経済連携協定）による看護師候補者の受け入れを行っています。

2014年12月15日より、2人の仲間が加わりました。

写真向かって右がレノさん、左がノフィタさんです。

2人は病棟や外来で看護助手として働きながら、日本での国家試験の合格を目指します。皆さまどうぞよろしくお願い致します。



写真上
日本での研修修了式の様子です。

厨房が新しくなりました

2014 年 10 月に始まった厨房の工事が無事に終了しました。

工事中は産科病棟を含む全病棟でのお食事の提供がお弁当になり、7階レストランのメニューが制限されるなど、様々にご迷惑をお掛けしました。ご理解ご協力いただき誠にありがとうございました。

新しくなった厨房は、冷蔵庫を一つの部屋にまとめて置いたり、食器洗浄機を多く設置したことで、以前より空間が確保され、作業スペースが増えたそう。

皆さんに美味しいお食事をお届けできるよう、栄養管理科や厨房のスタッフは朝早くから夜まで頑張っています♪



扉を開けると・・・
冷蔵庫が整列？！



写真左・下
産科病棟のお食事の
一例です。



写真左
厨房の内部。
とてもキレイです。
朝から夜までフル稼働
しています。

すぎなみフェスタに出展しました



去る 2014 年 11 月 8・9 日、原っぱ広場で行われたすぎなみフェスタ 2014 に初めて出展しました。120 以上あるテントの中で、病院として出展していたのは当院のみ。
テーマは「ふれてわくわくおぎくぼびよういん」。



栄養管理科による患者さん用のお食事の試食と、お子さんが白衣を着て写真を撮れる「ちびっ子写真館」を開催。
お子さんたちよりも、小さなお医者さんにメロメロだったのはパパとママでした。2 日間で約 200 人ほどのお子さんの写真を撮影しました。

9 日には、病院を開放して「おぎくぼ病院祭り」を同時開催。縁日コーナーを始め、救急車に乗ったりアクセサリを作ったりする、ママもお子さんにも楽しめるコーナーや、果物の飾り切りや院内ツアーなど、大人も楽しめる企画を用意しました。

こちらも 1 日で 500 名ほどの方にいらしていただきました。このイベントは来年も行う予定です。ご家族皆様でぜひ荻窪病院に遊びに来てくださいね！



フットケア・下肢救済センターのご案内

2013年9月に開始しましたフットケア・下肢救済センターの診察日を2015年1月より隔週から毎週火曜日に拡大します。

糖尿病や閉塞性動脈硬化症を原因とした難治性創傷は、局所処置と並行して基礎疾患の治療を行うことが重要です。フットケア・下肢救済センターでは、重症虚血肢（CLI）や糖尿病足病変（DM foot）の患者様を対象に、早期より整形外科、循環器内科、皮膚科など複数科の医師が協力して診療に当たっております。



基礎疾患を含めて早期より治療を行うことにより切断を予防したり、すでに壊疽に陥ってしまった重症の患者様の場合は、極力切断範囲を小さくすることを目指します。難治性足病でお悩みの患者様は、かかりつけの先生を通し、ぜひ一度当院にご相談ください。

◆ 対象となる人

動脈硬化や糖尿病などの持病があり、

- ・足などにできた傷が治りづらい
- ・すでにある傷が膿んできている
- ・かかりつけの医師に、足などにできた外傷について「専門医に診てもらった方がいい」と言われた など



◆ 治療方法について

まずは、初診の段階で血流の評価を行います。また、糖尿病をお持ちの方は糖尿病の評価も合わせて行います。基礎疾患をきちんと診ることにより、その後の治療法を決定します。

ギプスを用いて患部への圧力を分散させるトータル・コンタクト・キャスト（TCC）法や、血管内カテーテル、あるいは管理栄養士による栄養指導など、様々な角度から、血流障害や糖尿病のコントロールを行っていきます。

◆ 診察日と担当医

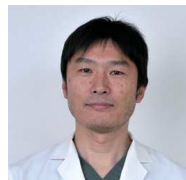
第1・3火曜日 早稲田医師

第2・4・5火曜日 小金井医師

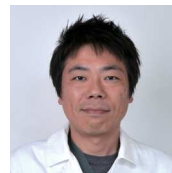
※いずれの火曜日も午後の診察枠になります。

◆ 診察を受けるには

全予約制のため、かかりつけの先生からの紹介状が必要となります。紹介状をお持ちの方は下記までお電話ください。



整形外科
早稲田 明生医師



循環器内科
小金井 博士医師

ご予約はこちら



荻窪病院 地域連携室 03-3399-0257

（平日：8時30分～18時30分、土曜日：8時30分～12時）

医療法人財団荻窪病院広報紙

2015年1月1日発行

発行責任者 村井信二

編集/企画 地域連携室

〒167-0035

杉並区今川 3-1-24

医療法人財団荻窪病院

03-3399-1101（代表）

編集後記



皆さま、明けましておめでとうございます。今年もよろしくお願い致します。さて、のんびりしたお正月休みも終わってみると、気付くのはお腹まわり。暴飲暴食ですっかり羊さんのお腹を何とかしなくてははいけません。でも、ご存知でしたか？冬はダイエットに向く季節なんだそうです。体が脂肪を燃焼してあたたかくなろうとするからですって。頑張らなきゃ！と新年早々、決意を固めた仕事始めでした。今年が皆さまにとって良い年でありますように。

（地域連携室 N）